WASON
HQ
1104
J74+

驛遞局認可

明治二十年二月五日刊行

女學雜誌

第五十號

每土曜日發兌
一册正價五錢
府內無郵送税

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 50. FEBRUARY 5TH, 1887.

第五拾號

EDITORIAL: About Boarding Rooms in our girl's schools.

LEADING ARTICLE: Prof. R. Yatabe's Lecture on "The Female Education"; Miss Colbey's Temperance Lecture: No. II; Voluntary Marriage, by Senator S. Nishimura.

MISCELLANIES: The Aim of Bakin in Writing his Novels, by Rev. Mr. M. Uyemura; Friend of school girls: No. I.

BIOGRAPHIES: Mrs. Susanna Wesley; Mrs. Eureka: No. V.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISEMENTS.

●社說　女學校の寄宿舍

●論說　矢田部良吉君女子教育論講演筆記(完)コルベー孃禁酒會演說筆記(二)○男女相擇の說(西村茂樹君)

●叢話　馬琴小說の神髓　植村正久)○女學漫錄(女の文章、男女混合教育)

●佳傳　ジョンエスレーの母○ゆりか物語(五)

●寄書　まどふ心の歌譯(若松志づ)○婦女の地位に就ての疑を質す(石丸艶子)(じやがたら文(二)○乳母を雇ふに就ての心得(藤井けい)

●新報　十則　●廣告

●珊瑚の玉　(第十九回)

○万葉集の歌は風雅なり漢魏の古詩までをかねて稍や盛唐の詩をはじめ交ゆるものなり古今集の歌は正しく盛唐の詩なり後撰拾遺の二集は盛唐初唐の詩を交へたるものなり後拾遺より新古今までは中唐晩唐の詩に宋の詩をまじへたるものなり新勅撰より下のかたはいふに足らず(太宰純獨語)

○源氏物語の初に桐壺のみかどゝ云ふ帝あり更衣の女官を寵愛し玉ひ其腹に皇子出生す之を光源氏と云ふ其母早く死去す帝哀みに堪へず其心の慰めに帝の姪宮を中宮として藤壺に住せらる是れ伯父にて姪を妻とするなり光源氏藤壺の宮に密通す是れ繼母に通ずるなり其藤壺の腹に光源氏の子出來たり帝この事を知らずして我子とし玉へり後に帝崩じて光源氏の子位に即たり之を冷泉院と云ふ右の如く伯父として姪を妻とし子として繼母に密通し臣としてわが子を帝位につくこれらの非禮不義亂逆も實事にて其事蹟を記すならバ是非に及バず素より無きことを設けてつくるならバ右の如き非禮不義亂逆のとに依らずとも人倫の道に背かざる好色のものがたりいかやうにもおもしろく作りやうあるべきなり(安齋)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第五拾號
明治廿年二月五日

●社說

○女學校の寄宿舍

女生徒諸君が人に嫁して一家の妻となるに當り其舅姑親戚を初として甚しきは當の夫に至る迄或は彼此と苦情を鳴して不平を訴うることあり其元因は雙方に存して一方をのみ責むべきにあらず特に其罪をこの細君一人に歸せんとするは尤も公平ならざるの議論と雖も若し女學記者として之を述るときは勢ひ之が責を專ら細君の上に置て特らに其注意を望まざる可らず而してこの細君を責るの上に就ては之を養成したる各女學校の幹事及び敎員諸君に對して敢て一言を及ぼさゞるを得ざる也。蓋し今の女學校の敎育は男學校の取扱と大同小異にして眞に女子を養成するの道に適はざる者あり皆な之を改良して追々に完全なる方法を盡すに至らんとは吾人が敢て之を切望する耳にあらず當路の諸君に於ては定めて夙く其計畫ある者と信ずると雖も目下の景況前述するが如きを見ては其改良の成べく速に行れんことを望みて止む可らず特にかの女生徒寄宿の法方の如きに至ては決して一日も永く今日の儘にて放置すべきにあらざる也

蓋し今の女學校に於て女生徒を養成するの方之に通學を許して銘々の自宅より學校に通はしむると之に寄宿を許して校內に常住せしむるとの二あり。然るに學校の敎育は書を讀み藝を習ふのみを尊しとせず目に敎師の品行を讀み身に生徒同志の交を習ひて知らず識らざるの間に其行作を研き所謂る學校內の感化なるものを蒙るを以て甚だ大切の事とするにかの日々學校に通學して平生其自宅に居住するものは只だ彼の讀書習藝の一偏を學び得て他の大切なる感化を蒙るの便なく申さば只だ半ばの敎育を受る者あり其損甚だ少からずと云ふべし特に當今の如く一方には開化日進し一方には舊習尚除き難き時代に於て學校の敎育を受る者は學校に於ては西洋文明の學藝を習ひ乍ら家に歸りては天保年代の風習を行ひ內外に矛盾して差引の損いよ〳〵大なる者あるが故に苟くも眞に勉學して相應の敎育を一身に受入んとするものは通學の事甚だ可ならず到底學校に寄宿してかの學藝と感化とを二つながら取るの心得尤も緊要ならん。然るに今の如き寄宿の方法を以てせば女生徒が寄宿して得るの害は反て通學の爲に受るの損に過たり敎育の上に於て遺憾至極と云はざる可らず思ふに今の女學

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

校の寄宿方は全然男生徒の寄宿法と同じ、舍の結構は一構の長屋若くは二階屋あり之を數多の室に割りて何番の號を標し一室大抵六七疊乃至十一二疊を敷きて一隅にちとの戸棚あり机四五脚窓下に列して間に些細の本箱を安置し机上の筆立に水して一枝の梅を插み傍の壁に新聞紙の切端數枚を貼りて軸物に代ゆ之れ切てもの裝飾あり講堂に出で丶日課を學び了れば則ち此一室に退きて肱を案頭に置き復習す稍や厭き來れバ身を後に倒して其儘に丈伸するもあり隣席の友と並び臥して暗誦容易ならずと云ふ同情のなさけもあるべし更に暇ある時は室中乍ち討論會の會場となり夜間は戸棚の夜の物自ずと轉げ落ちて即席の床となるべし斯れば室と室との交際亦甚だ容易にして往來出入勝手なり障子未開かずして外より大呼し來るもあり失敬の聲既に遠く離れて伏間の未だ閉たざるもあり立て談ずる者は仰で答ふる者を罵り退出で丶走り掛るものハ菓子の配當なきを責る者と知らる又その食堂に入りて會食するや舌の皷歯の拍子甚高く運動に出で丶遊戯する時手の舞ひ足の踏む所甚だ輕しと云ふ。寄宿舍内の摸樣若果して此の如くんば女生徒が優雅温和の徳を失ひて間ま活潑粗朴の弊に陷り女性交際上の心得を變へずして所謂る書生社會の取扱を樂しみ洗濯裁縫を好まず炊事家政を喜ばずして無益の讀書談論を樂むの風あるに至らんは素と是れ自然の結果なり況んや此樣の女生徒が出で丶人に嫁し遂に苦情不平を鳴ると云ふ者ハ又尚ほ免る可らざるの因果と云ふべし

抑も女生徒を學校に寄宿せしめて之に學藝を敎ゆるの外に尚種々の感化を與へんと云ハゞ先づ之を良好の妻とし母となすを專一の目的とすると緊要なり。故に室内を飾り物品を配置するの心得より食物の料理、衣服の裁縫、は固より月々の勘定出入の豫算、家人相交るの心得、來客接待の禮儀、病者看護の方法、等皆之を覺悟して朝夕に優美の雅風を養ひ起臥に温和の女徳を敎へ尚且つ一家を調理するの習慣に熟する樣取扱はざる可らず。寄宿舍にして若し如此ならバ則ち妻たり母たるの女生徒を養成するに於て能く其目的を達したるものならん。然して此樣の方法を得るハ甚はだ容易の事にあらざるが如しと雖ども幹事敎員にして若し其力を盡さば大抵の女學校に於て右の如き處置を行ふと亦敢て爲し難きにあらざるべし

其法たる蓋し寄宿舍を一棟に結構して勤番者を長屋に割入れ我猿書生を講武所の塾中に混住せしむるに似たる不都合の取

扱を全廢し地所の許さん限は小舍數多を遠く隔て丶別々に建築し一舍に十數人の生徒を容るべし若し地面狹らん時には三四十人の生徒を一棟に入る丶程の舍を別々に設くべし要する所は餘りに多數の人數を一軒に雜居せしむるを止めて成べく小人數を別々に寄宿せしめ其別々の舍内には一人の舍長たるべき品行良善の主婦を置きて（時としては女敎員若くは幹事も亦此の主婦となすべし甚可なり）一舍は恰も一家の如く取扱ふにある也。故に食物の仕度其外は舍内の生徒交る〳〵之を行ひ衣服其外は人々自ら之を用意し舍中の人の病氣は各之を看護し其喜は互に相祝して樂を分ち食時は卓を一にして會食の間に愉快を共にし間暇は相和樂して談笑吟樂し彼此相親睦するの間に同情の念を養ひ舍內整治の上に家政調理の術を覺へ且つ舍と舍との交際を鄭重にして來客接待の法を學ぶ等凡そ後に至り一家を治るに必要なる修業は大抵之を學び得て尙ほ優美なる風習に一身を慣らすとなり此處置や蓋し前述するの必要に應じて能く女生徒の寄宿敎育に適するの法方なる可し聞く所に據れば歐米に於て女生徒を敎育するの制も亦元と男生徒を取扱ふの方法に異る所少かりしが爲に其弊害甚だ多かりしと云へり故に近年ガービチス又はボーヂング丶ハウスの組組を設けて專ら女德の養成に注意したるに效能甚だ著しと云ふもの即ち吾人の愚考する所とよく相應ずるもの也。思に學校に於て女生徒を敎育するの處置は必や此の如くあらざる可らず然らずして若し今の如き寄宿舍に女生徒を容れて之に七八年の星霜を經過せしめば高尙なるは或は哲學者理學者たるの女子となり野卑なるは或は亂暴不始末の婦人となるもかの一家を調理して姑舅親戚之れが爲に滿足し夫子之が爲に和樂するの良妻賢母たらんとは得て望むべきにあらざるべし。故に細かに娘孃を思ふ所の父母は當今大抵之を學校に寄宿せしむるを好まず多くは通學して所云る學校敎育の半を受るに止まらしむると素と實に止を待さるに出るなり女生徒敎育の本意豈に此の如くあらんや寄宿舍の改良一日も忽にすべきにあらざる也

The Modest Virgin, the prudent wife, and the Careful Matron are much more serviceable in life than petticoated philosophers, blustering heroines, or virago queens. She who makes her husband and her children happy, who reclaims the one from vice, and trains up the other to virtue, is a much greater character than ladies described in romance, whose whole occupation is to murder mankind with shafts from the quiver of their eyes.

GOLDSMITH.

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

●叢話

○馬琴小說の神髓

植村正久

春水骨文等が如き小說家は是と申す程の人物に非ず其の著述する双紙物語は人類の世界に於て婦幼を喜ばせ時好に投じて流行を博するのほか目的の無きものあり此等幇間者流の小說家は余輩の筆頭に懸く可からず左れど曲亭馬琴の如きに至りては才學は云ふまでもなく精神も稍高く人品も尋常ならず其の筆に成れる稗史中觀るに足れるもの少なからず誠に日本の文學史上極めて高等なる地位を占むべきものならん余は平素曲亭の著書を愛し母の膝下に在りし頃より翁が巧みに說き出す博愛忠孝の佳話に心を皷舞せられ節婦義男の事蹟に感涙を催ふし志士俠客の傳說に意氣を爽快にしたること多くおのづから其人と爲りに熟したる心地せられ其の筆の痕に對すれば彼の飯台なる老人と其の著作堂に相會して古今を討論するの思あり斯の若く余は曲亭子の著書に由り其人を概想し其の精神を動す所を考へて得たる所甚た多く時としては同感の涙に噎び坐ろに我を忘るゝに至れり今其の一例を擧げて本誌の讀者に示めすべし

試みに思へ何にても巨大なる事業が半途にて廢り崩るゝときは吾人をして遺恨に堪えざらしむることあり是れ自然の人情に非ずや余少かりしとき軍記野乘を讀み豊公が卑賤より興りて絶大の功を成し猛將英傑雲の如く其の幕下に集まり雄圖海の内外を蓋ひ威武甚だ盛んなるを見て欽羨敬服に堪ふる能はず功利の念勃々として大丈夫亦斯の如くならざる可らずと思へり然るに露とおき露と消ぬる吾身かな浪花のことは夢の世の中と詠じて世を去りし間も無く秀頼の威勢頓みに衰ろへ流石に堅城と聞へし大坂も陷落して豊臣氏祀を斷つに至れるを見浩嘆して英雄の末路を悲しめり關青野の戰に遺恨を止め浪花の役に望を失ひ或ときは何故に東照公は平野にて討れざりしか何故に日本剛の鎗先を免れしかと徒らに時の可ならざるを慨嘆したることもありき稍事理に通じ治亂の道をも尋ね得至れる今日においても歷史を讀むときは往々にして幼時に齊しき感情無きを得ず況んや義士仁人優美なる才子の薄命不遇其終りを詳かにせず若しくは其末路の悲しむべきものに至りては誰れか之がために涙泫然たらざるを得ん孔子が顔回の短命なるを嘆き杜甫が孔明の出處を憫れみ出師未だ就らずして身先づ死すと歌へるが如きは古今皆同感と謂ふべきなり思

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ふに曲亭子は甚だ此の情に厚きものありしならん其の該博なる歷史上の智識は義士道に窮し忠勇の人身を外に忘るゝといへども功を成さず貞婦苦節の刄に死し或ひは前途の望高き才子佳人空しく一朝の露と消え行くなんど茫々たる世路に失望遺憾の塚墓壘々たるを悲しみ其の深遠微細なる人情は爲めに動かされて嗚咽するに至り慷慨筆を採て鎌倉營中第一の才子朝夷奈三郞義秀が不虞の兵亂に家亡び身の行方も知らず成りたるの遺憾を晴らさんがために巡島記を作り三代の孤忠狂瀾を既倒に回すこと能はず家を擧げて盡く亡び失せたる楠氏の遺憾を洩さんがために開卷驚奇俠客傳を作れり此等の精神より出で此の目的を以て作れる著書其外にも少からず噫人事の成敗ハ吾人の理想と背馳せり千載の望を懷て世に生るれども人生五十七十は古來稀なるに非ずや舜も人なり我も人なり何ぞ聖域を企圖せざらんや然れども修德の業半にも至らず不幸短命にして死す天道照臨して上に在り然れどブルウタスの叫びたる如く世は暴君カイザルのために作られたりと見ゆるに非ずや斯の如く觀來れば實際の世界は理想の世界に非ず此の理想界何處にかある翁よ爾は理想界の一斑を空中に描出し讀むものをして聊さか無念の情を遣らしむ翁よ爾の感慨は即はち余の同うする所なり否獨り余の感慨のみならず古今人類の共にする所なり人類は此の理想を覓めて得ず然れども之を徙ずして止むべからず若し其の實を獲ること能はずんば願はくは其の影を見ん良し小說の夢に入りたる理想界に遊ぶも可なりと其の情何ぞ其れ慘なるや然れども天父は吾人をして斯の如く夢を以てするのほか心を慰むべき所なき世界に置き給へるものに非ず翁よ爾は未だ永生の道を知らざるなり永生の道とは何ぞや靈魂永遠に存して義者は神と共に住し智も德も情も其の發達を極むる活潑々の世界なり若し此の世界にして存せずんハ吾人ハ徒らに畫餠を見て喜び馬琴翁が小說の夢に遊びて聊か吾が志を伸すべきのみ世人ハ永生の事を疑ふ余ハ永生の無きを疑ふなり世人は身死して靈魂の朽ちざるを怪しむ余ハ人生五十にして百事悉く徒勞に屬し英雄の慷慨も聖賢の宿望も淚も笑ひも才も愚もみな茶毘一片の煙なるを怪しまざるを得ず世人ハ天國の說理に適はずと爲す余は天國に非ざれは人生の現狀を解說すること能はず左れば菩提樹の下に寂滅の理を發明しアラビヤの野に肉慾の樂園を想像したる釋迦馬哈墨は云ふも更なり小說家も野史も又之を讀んで泣く壯夫老嫗も皆理想の天國を慕ふものなりとす

○女學漫錄

婦人の文章　　厭谷山人

我國にても古へは婦人に文章を能くするもの少なからずなかには永く世の中に傳はるべき著述を爲せし人もあり然るに何時の頃よりか婦人の教育次第ゝ衰ろへ文章にも是ぞと申して見べきもの殆ど稀なるに至れり成程近來は才女數た世に出で給ひたれど其の名を知らるゝものは詩を賦するとか歌を詠むとか書畫を巧みにするとか云ふに止まり眞に思想を練りて立派に文章を作りたる人無し婦人等のかき給ふものを評すれば皆祝文もどきの躰にして誰攘の文章も殆ど活版にて刷り立てたるものに異ならず其の表題を一見すれば文中の意讀まずして知りぬべし斯の若きは平生もの丶本を讀み給ふにも記臆を專一にして思想を用ゐること無く凡て事物の妙理をば自からの工夫にて考へ出ださんともせず浮虛〱と月日を送るに起因り善く〱注意すべきことにこそ

男女混合教育

此頃アメリカなどには年長けたる男女の大人を同じ大學校にて教育するの論盛んなるが已に其の事を實際に行ふ學校も少なからず男女が高等なる學術の研究を競ふも婦人の方更に劣れりとも見えず男子の方必らずしも優等の地位を占むる能はず實に文明國の有樣こそ慕はしけれ且つ斯る教育を爲すといへとも男女の間に淫奔猥褻の弊を生ぜず清潔の風其の間に行はるゝは德義の勢力甚だ盛んなるを見るべし吾人之を羨まざるを得んや今此の教育法を贊成し若しくは駁擊するもの丶論を承はるに種々の件々ありて一ならずといへども其の重もなるものを擧れば曰く男女を一所に教育する時は之を各箇なる大學にて教育するよりも其の經費極めて輕からん國家の利益斯の法を採用するに如くは無し又曰く男子の强きを以て婦人の心を養ひ婦人の和らかなるを以て男子の暴びたるを矯むるは教育の最も大切なるものなり又曰く婦人は男子と知識を競爭するの力ありと是れ其の贊成者たる人々の論點なり曰く男子と女子と其性質を異にし互ひに世に立ちて爲すへき事業を異にせり豈に同一の教育を受くべきものならんや婦女子に必要なる教育は必らずしも男子に必要ならず男子に必要なる教育は悉く婦人にも必要なりと云ふべからずと其の外か駁擊家の議論も區々一にして足らずといへども要するに是れ其の最も强き論點ならん彼の邦の風俗にては孰れが是か孰れが非か判斷し難けれど兎に角斯る議論の起る程の地位に婦人の進み

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

たるを見て日本人が警醒すべきことあり（以下次出）

論説

○矢田部良吉君の演説（女子の教育）筆記（四）

たとひ女子の教育を女宣教師に頼むといつても女宣教師に取ッては定めて急激に過ぐる樣なとは好みますまいし又その樣な急激説は行はれますまいから害はありますまい。また或る論者は開明の針路が西洋流と定まッて來からは女子の教育も西洋風にするがいゝといふが成ほどよいとはよからうが兩親の舊習に泥んで居る間に立たなければならないから今日では長者に對しての特別の心得も無ればならないと言ふ。此説は穩當の説であッて箇樣な心がけならよからうと思ひます

文部省が十九年十二月六日に高等女學校に訓示した高等女學校生徒教導方要項と云ものは當を得たるものと思はれます。其の第一項に「生徒は尋常小學校の課程を卒りたる以上若くは之に相當せる學力ある者を入學せしめ先づ女子生涯の職分の基となるべき普通學科を教へ尋きて一家の責任を負擔するに切要なる學科及藝能を習はしめ最後凡一年間は夫妻の關係舅姑に對する心得、育兒法、家事整理法、婢僕に對する心得、朋友親戚等に接する心得及交際動作の心得等を講究せしむることとありますが、この女子生涯の職分の基となるべき普通學科を教へることと一家の責任を負擔するに必要なる學科、藝能を習はせることは必要に違ひないが併しながら夫妻の關係シウトシウトメに對する心得などに關することは最も注意を要することで特殊なる時勢に在ッては女子の心得方はドウしなければならぬといふことは洞察してやらなければなりませぬ。このことは最も肝要なことと思ひます。そこで私は極不肖ではあるが卑見が無いでは無いが陳べると長くもなりますから略しますが若し私の生涯の中に私の所見に合ふことが行はれたら批評を請ふことも御座りませう。精神と精神の關係に付てのことは陳べたところでサホドでも無いからこゝでは申しますまい。

それからして今申した生徒教導方要項の第二項に「日本舊來の女子職分及習慣にして善なるものは愈々之を進め不善にして改良を要するものは其の倚存する間は之に和して同せす漸次圓滑に其の改良を遂ぐるの要旨を教訓すること」とありますがあれは言ふには易いことであるが行ふには甚だ難いことで漸次圓滑に改良しなければならぬといふのだが其の心得を持たせるのが必要であります。言ふには易いが爲すにはむ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

つかしい故に箇樣なことには敎員の選み方ハ最も大切なことであらうと思ひます。文部省か高等女學校に訓示したことは私の甚だ賛成することで且幸に校長敎員ともに其の人を得て居ることであるから其の行はるゝことハ疑ふべからざることと信じます。

しかし女子の敎育に付て文部省に望むことハまだ澤山に御座ります。文部省は甚だ高等中學其他に力を盡されて居りまして優等なる生徒は外國に遣はされますが併し我が國の敎育ハ男子のみで無く高等敎育を受くべき人の母となるべきものを養成することに注意しなければなりませぬ。女子の敎育には男子の敎育に費す金額の百分の一も費さないのは私の甚だ疑ふ所で御座ります。尤も文部省には具眼の士が澤山あることであるから定めて男子と女子と萬事萬端一所にやることは難いから其れで女子の敎育に注意する暇が無いのであらうと思ひます。

また或る論者が耶穌敎師の學校云々と言はれましたが私ハ失禮かハ知らんが耶穌敎師の立てた學校でハ今日の所でハ不充分と判定せざるを得ませぬ。故に文部省に望む所は高等敎育を受けたるものゝ室偶を養成する爲めには高等女學校の規模敎室建築をして優美なる女子を敎育するに適したるものとしなければなりませぬ。文部省の學校が果して我が邦の女子を敎育するに適したるものならば現今にも將來にもすべての女學校が文部省の學校を摸範として（たとひ細目にハ違ひがあるとも）大體ハ同樣にならうと思ひます。また或る場合に於てハ文部省の學校よりも一層完全のものが出來るかも知れませぬ。いづれにしても今日女子の敎育に注意することは必要と思ひます。

以上述べました所ハ女子の敎育の鄙見の一斑でありまして迚も盡すことは出來ませぬが若し諸君にして御同意の點もあらば私の幸で御座ります。つゝしんで諸君の貴重の時間を費し併せて諸君の淸聽を煩はしましたる事を諸君に謝します（完）

○コルベー孃婦人禁酒會の演説筆記（二）

又或る市に如何しても酒を賣ることを已ぬ人がありましたが其店の戸の前に婦人等は腰打掛けて守りました故酒買ふ人ハ入ることを耻ました藥舗は酒を藥の如くなして賣りました故之れを除くには第一困難でありました婦人儕ハ朝より晩まで更る〴〵店頭に居りました故人々酒を買ふことを耻じました扨又た飲酒を願ふ人は醫師の許に參りまして種々の病を言立て其許

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

しを乞ひ酒を買ひに往きましたその中には種々の可笑しき病人の俄に出來ましたを見て婦人達は抱腹ました此禁酒の働きは四方へ擴布まして至る所其勢に感じました高貴人も卑賤人も金滿家も貧乏人も學者も凡人も皆相共に跪きて路傍に祈りました其中尤著名婦人の夫は後大統領になりましたハエス樣の貴婦人です各位御聞き及で御座いましやう私の本國米國では大統領の肖像を巧手の油畫工に書かせまして首都の政府に華麗な懸物として掛けました此婦人は夫大統領になりしとき種々善き働きを爲しました故大統領と等しく畫圖を並べて懸ました此各地の酒舖を閉づる事業は餘程大切で御座りますけれども母たり妻たる人々は此事業の爲に家事を捨置く事出來ませんでした又惡しき人は此事業の止むのを期望て直に店を開かんと致しました此祈禱を始めしより五六ケ月を經て基督信徒婦人禁酒會が始まりました現今は米國に五百有餘の特別の會がありますそして二百万人の婦人が盡力て居ります米國の北なる加那太と言ふ國にも獨立て婦人禁酒會を組織ました英國にも御座います

前に述べました如く始めは只酒店を止めさせる而已の考へでありましたが須臾にして一層深い目的で働かねばなりませぬと知りましたなぜと言へば飲酒を願ふ僻ある人は如何樣にもなして飲みましやう酒を賣るとを願ふ人は如何にもして賣りましやう夫れ故最も上策は酒の害あるとを教ゆるとであると悟りました各位其禁酒會規約雛形五葉事業の區分の處を御讀なさいますならば其目的を御了解なさいましやう

第一遺傳に關する事是は第一大切な事で御座います酒而已ではありませぬ親達に不良き事がありますなれば其子に傳へましよう此教は別して母親に大切です何方にも娘のある家には其母より能く〳〵教へて貰はねばなりませぬされど女子而已でなく男子の爲にも大切であります親達が卑穢き行をなし虛言を吐きますなれば勿論同じ樣なる子供が出來ねばなりませぬ

第二衞生に關する事、是も大抵前と同じ程大切であります去頃私は兩側に誠に〳〵汚穢き溝のある道を通行ましたが其時或る家に公告が貼りて在りました之れ衞生に就て教へるとを知らす爲の公告でありました私は其を見ました時に其人の野蠻な事を笑ひましやうか哭きましやうか孰ちらをして宜きやと迷ひました衞生の事を教へますなれば其穢き道を淸くせねばなりませんと思ひました此衞生に關するとは淸潔なこと

が第一大切で御座い升清潔な街渠清潔な飲用水清潔な寢臺清潔な押入清潔な口清潔な空氣清潔な心などは一番〳〵大切です、馬太傳五章八節に心の清きものは幸なり其人は神を見る事を得べければなりとあります私共は世界の國々を探して見ますれば此事の信であるを見出しましよう清き男清き女は神の樣になります不潔な人は獸の樣になります又は獸よりも猶く厭ふべき惡魔の樣になります是は只想像の話では御座いません清潔な社會は天國の樣であり升不潔な社會は眞に地獄の樣であります是事に就いて深く御勘考なされて下さい

第三禁酒の敎を學校敎科書中に編入する事、此題は尤も深き面白き題で御座い升けれども今日之の爲に御話致す時がありませぬ

第四日曜學校の事業、此事は日曜學校の敎師の爲に餘程大切な働きであり升私共は或る事に深く感じませんなれど人に能く敎ふる事は出來ません今人自分に酒烟草を飲ながら禁酒や禁烟の働をする事は出來ません或る信者は酒を飲ます又は烟草を飲ます又或る信者は是等を禁ずる爲に盡力ます其れ故に不信者はどのやうの考を起しましやうか同じ口から耶蘇の清き敎と酒や烟草の不良ひ香ひの出ますするは傷ましき事ではありませんか此事に就て深ふ御考へなさい私共の安息日學校の敎師の口は皆清くありますか

第五少年に關する事業、是も誠に大切です私順序に付ては各題中一番大切と思ひます凡て小兒の中にも禁酒會を設立まして酒や烟草の害ある事を若き間に敎へねばなりません何卒成丈早く日本にも此事業を起して下さい

第六禁酒に關する文學書、是は青年の爲め立派な事業であります今日本に此の樣の書物が少ふあります英語には澤山此類の面白き本があります英語を解する人は之を日本語に譯しますなれば多くの人が喜て讀みまして大なる益がありましやう此事業は外國にて澤山益がありました

第七新聞紙をして禁酒の主義を贊成せしむる事、是は第六の樣に若い人に餘程面白き善き働であります此手段に因て禁酒會の事が世に公になりまして澤山の人が新聞を讀て感じます

第八の題は第四と同し類の事業ですから別に申ません（未完）

HER PRESENCE OF MIND.

While on the Cliff with calm delight she kneels,
And the blue vales a thousand joys recall,
See, to the last verge her infant steaes!
O fly—yet stir not, speak not, lest it fall.—
Far better taught, she lays her bosom bare,
And the fond boy springs back to nestle there.

Leonidas.

●佳傳

○ジヨン、エスレーの母

斯て又スウサンナが其夫を愛するの切なるは恰も其子に於けるの愛に似たりけり素と夫のエスレーと云ふは其政治上の意見の故をもて人に惡まれたるともあれば或る時僅かの事をもて牢に投ぜられぬ其折夫人は指環を賣て漸く金を獲つ之に祈禱の書を添へて牢内に贈り入れたり左れば夫は此書をよみて其心を慰め又同囚の罪人どもに道を傳へて餘念もなく敎の爲に働かれけるとなり。其後又或る事ありて夫エスレーの不在なりし時かねて其敎導せる人々は就て敎を受くべき敎師もなくて困却するよし申すに付き夫人は自ら書物など之に讀み聽かせて靈の心を慰めたり然るに夫れ此由をきゝて心に喜ばず女の身にてかゝる事爲さんは宜しからずと書送りたるに夫人は今此人々に敎を傳ふる人もなくて道に迷はんとするを見ては女の身にも猶豫しがたく覺へて只だ君が御歸の時就きて學び得なん人々を造らんとの準備に候と答へぬ然るに尙復た夫より再應の言ばありければ夫人の答文に

吾夫願くは妾に斯爲せよと命じ玉へ願くは只の注意までとは申し玉ふな

と云へる一句あり蓋し人の注意とあれば心を曲げて得從はぬ所ありとも若し夫の命とあらば其良心に反かざる限りは何事にも喜んで從順し玉ひけるよし之れ實にスウサンナが夫に對するの誠なり

スウサンナ十九人の子を擧げたれども六人は早く失せて十三人のみ生立ちたり何れも劣りなう人となりてそれ／＼に有益なる事業に就きたるが中にも尤も名を轟かして此世に大なる德を建たるは即ちジヨンエスレーなり此子六歳の時家火を失して悉く燒け落ちたるが此折夫人は躊躇の末四度目にやう／＼勇を鼓し火中を通りて外に逃れ出でたる程なり左ればジヨンの如きは殆んど身を失はんとしたるなれど二人の男ありて肩に踏つぎ辛うじて之を窓より外に救ひ出し九死の中に一生を得たれば夫人は之を非常の大幸とし之れ御神が何事にか大に用ひ玉はん爲めの恩なるべしと悟りつ特に慈しみて育てたるなり

十三人の男女は何れも智德すぐれたる人となりても尙ほ常に母の敎を受け何事にまれ之に相談して其說をきゝたりかのジヨンの如きも遊戲と云へるとの可否を母に問ひたる由今に傳はりて美談となりぬ。斯てスウサンナは妻とし母としての一

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

生を完全に送りたるが七十八歳の秋八月老躰次第に衰へて遂に今日明日と云へる終とはなりぬ然れど容貌靜溫にして神色自若たり枕頭を取まきたる子供等を見かへりて靜かに申すやうは子よ吾御招を蒙るを見ば速に神へ賛美の詩をうたひ玉へ("Children," she said," as soon as I am Released, sing a psalm of Praiseto god")と言ひ了りて其儘に永眠す送葬の式場に立て説教したるは即ちジョンエスレーにて一生の演説數多あるうち集會のかく嚴肅にして最としめりたるは未だ曾てあらざりしとあり

○ゆりか物語（六）　月の舍しのぶ　錄

黑雲の幕は星の針に刺されて覆ひ懸り白濤の山は風の力に壓されて忽ち出沒す茲に一艘の難船あり只見る波のうねり〳〵に浮沈して一葉の急流をそふてたゞよふが如し打上ぐる時は波頂の冠となり落入ときは水底の靴となるドゥと打つ舷の波は碎けて玉を散らし一轉し行く船躰は突出したる波岳の麓に至りて留る然るに船の中には少からぬ男女ありてそが中には吾もあり父吾夫も見へたり鳴呼吾等は此波にや水屑とならんかの波にや碎かれなんと思ふ折しもあれ天いよ〳〵吹き暴れて怒濤ます〳〵狂奔したるが乍ちに龍の口を開きて抱きかゝる波の出で來て恰も靜まり居たる吾船をば覆はんとす鳴呼やと叫ぶ聲に驚かされて吾乍ら獨り覺れば夜深く月白き孤窓の下に思ひわびたる假眠の一夢なりけり動氣なほ治まらずして精神恍惚たりかの船中には知れる人の數多ありしと覺へたるが……あの温さんも居玉ひたるが……あ……夢なりしこそ切てもの幸なり

然るに夢は幻とならずして此の幸は反て不幸の豫言とはなれり其後多くもたゝざる比ろ東より下れる人の話に温太は身を秘して密に外國行の船に乘込まんとしたるが途にて時ならぬ暴風に遇ひ通ひ船の行衛定かならず破船のしるし彼此にたゞよひ來りたれば彼れ大方は水中の鬼となりたらんと云ふゆりかの愁歎は更に極りて言葉に出すべき言語はあらざりけり先づ父を失ひて次に母に後れ今また父の許したる後日の夫を逝かせて身は西天の一隅にあり名にし應ふ浮世は憂苦の少からぬものと知れど斯くも吾身に酷なるは抑も何如の運なりや秋の夕、月のさえたる折、夜の雨窓を叩きて、心さびしき頃、物の哀れは斯るものぞと知りぬ然れど倘ほ望と云へる心の吾を慰めてやう〳〵に憂の切なるを醫やしたるが今は早や後の日、望むべき種はあらず草木月雨みな吾をかなしみて只だ吾身の

世にあらんを吊ふが如し」婦女子もし此境界に入れば心の糸みな散亂して思ひ一つならず志も失せ情も去りて貞操の勇は影だに止めず不幸此時に過たるはあらざるべし。秋目の老人等はゆりかの摸樣を見て煩ふると大方ならず何如にもして之を慰めんとしたるが容易うは笑ひもせず此儘にあらせんには何如なる病をも引出さんやと思ひつ老婆の心は先づ發言してゆりかよ婚姻をすゝめたりゆりかは最早一定の考もあらず兎角よしなに取斗ひ玉はれとの答に遂に之を泥舟に妻はすととありぬ泥舟は先師の遺娘として之を敬しゆりかは只何となう結婚しぬ其心もとより眞の愛などあるべからず造化の配偶の不思議なる尋常の理をもて知るべきにあらざるなり

● 寄書

○まどふこゝろの歌　　横濱　若松しづ

左はミスプロクトルの "A Doubting Heart" の意を譯せしものなり

一
雲井はるかに　とびさりし　つばめのゆく衛　いづくぞと
とへば答へて　をきつなみ　よせてはかへす　すさまじの
浦にこゝえて　果つるらめ

二
まどふ心の　をろかさよ　みどりの海を　へだてゝぞ
羽風もさらに　さむからぬ　岡にかけりつ　たわむれて
春かぜまちて　かへるらめ

三
のべや園さへ　よそほへる　花は霜夜と　あともなく
消るゆへこそ　いぶかしゝ　涙のあめを　あだにして
かへらぬ者の　ためしなれ

四
まどふ心の　おろかさよ　雪のしとねを　まとひてぞ
ふく小嵐を　しのぶなり　やがて時得て　さきいでつ
君にえがほを　みするらめ

五
みそらを照ぞ　わまつ日を　くろ雲覆ひて　きのふけふ
翌はいかにぞ　おぼつかな　さびしきとの　いくそばく
待べからずや　はるゝ日を

六
まどふ心の　おろかさよ　雲かくすとも　あをそらに
かわりしとの　あしと知れ　むかふる春は　あでりてぞ
さかふる夏も　ちかきぞや

七
のぞみは消つ　うせゆきて　おほぐひかりも　ぬば玉の
よるに跡なし　ちんうつの　とぢてこもれる　あり樣を
うちて貫くぬ　こえぞなき

八
まどふ心の　おろかさよ　そらくるゝとも　のちつひに
星のひかりぞ　あらわるれ　くらきはやゝに　はれゆきて
天使のみ聲ぞ　すみ渡らん

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

○婦女の地位に付ての疑を質す　飯田町六丁目　石丸艶子

妾頃日或人より聞きたるに英吉利佛蘭西を始めとし其他文明國の法律にてハ夫を持ちたる婦女ハ無能力者とか稱へて總ての約束を取結ぶの權利を與へずと妾此言を聞き忽ち一ッの疑を抱きたり依て或る法律家に就て之を質したるも妾の愚昧なる故か毫しも疑を解くに足らず因りて其疑を記るして貴社に投じ世の法律家の敎を乞はんとす

其疑とハ外ならず何故に夫を持ちたる婦女ハ無能力者にして約束を取り結ぶの權利なきやといふの一事なり抑も人の權利ハ何人も平等にして男女によりて差等ある理なしとハ法律家の毎に口にする所にハあらずや然るに婦女殊に夫を持ちたる婦女に付てハ人の權利中にも殊に最も必要なる約束を取結ぶの權利を殺ぎて人の權利を不平均にし男女の間に差等を立つるハいかにも奇妙不思議の次第にあらずや

或る人ハ之を解きて曰く「凡そ婦女ハ天性軟弱にして世事に經驗なく無智にして事の利害を鑑別するの力に乏しきものにして若しこれに與ふるに隨意に約束を取結ぶの權利を以てせバ其夫たる者ハ常に其損害の結果を負ハざるべからず故に此權利を殺ぎたるなり」と若し今より幾十世紀の古代に溯のぼりて婦女の有樣を云ひなバ或人ハ此說のごとく婦女ハ一般に無智無經驗と言ふを得べきものなれども今日は婦女と雖ども オサ／＼男子に讓らざる働を持つもの多かるべし殊に英佛の如き開化したる國にてハ婦女ハ決して無智無經驗と概言するを得ざるなり然るに斯る國に行はるゝ法律が獨り婦女を無智無經驗なりとするハ如何にも其當を得ぬ事といふべし且若し此說の如くならバ婦女ハ一般に無能力者とすべき筈なるに獨り夫ある婦に限りて無能力者となし其他の未だ夫あらざる婦女又ハ寡婦等ハ約束を取結ぶの權利ありとか聞けり婚姻を爲し夫を持ちたりとて婦女の智識がにハかに無くなり直に無經驗の者となる等の道理ハ一切之なかるべくして此說の取るに足らざるハ明かならん

無能力者とするハ獨り夫ある婦女子にかぎるからにハ婚姻を爲し夫を持つ事が婦女を無能力者とするの原因なきとハ推して知るべき事なり故にまた或る人ハ夫の權利か妻を無能力となすものなりといへり其言に曰く「夫ハ妻に命令するの權利あり妻ハ夫に恭順なるべき義務あり故に其權利に差異を生ずるものなりと」成程妻たる者は夫に恭順なるべき義務あるハ勿論なり然りと雖とも恭順の義務ありとて約束を取結ふの權利を殺ぐべき理ハ決して有まじきかと思はる如何となれは恭順

といふも唯夫の正當なる命令、處置にさからはざるまでにして爲めに妻の正當なる權利までを夫に捧呈すへき理あらされはなり

斯の如く婦女を無能力者となすの理由は毫しも取るに足らさるなり（妾の無學なる故かは知らねども）去りながら英佛等の文明國と唱へ婦女の他位の最も高き國柄の法律にして婦女を斯の如き劣等の地位に置きたる事なれは何か深き道理の存するものならん我邦も近きに民法とかの頒布ありとの事なれば其法律よて妾等も無能力者となり約束を取結ぶの權利を殺がるゝ事もやと思はる（文明國に摸範の有ることなれは）然らんには今より其道理を辨へ置きて徒らに怨を法律の上に置かざる用意こそ肝要ならめあはれ江湖の法律學者よ妾の疑を解きてたべゆめ〳〵小賢しき女めと叱り給ふなよ

○じやがたら文　（前號のつゞき）

さりながら此まゝに事はてなんとは存し不申候たゞ一たび神や佛の御あはれみにて日本へ歸り申へしとこそ思ひまゐらせ候たとへ三日をすぐし侍らできへ果まゐらせ候共いさゝかくるしからす候とかくすへは日本のつちとなり候はんとぞんじまゐらせ候あはれ〳〵神や佛の御はからひにて今一度御けんに入申たく候くれ〴〵念願にて御ざ候もしも又此世にて逢申さす候はゞわが身かね〳〵申したるごとく友たちは千世の契りと承りまゐらせ候へはかならす〳〵來世にはめぐりあひ申べく候げに〳〵御かたみの短册又をし鳥の羽なとかた時も身をはなし申さす持まゐらせ候必ず〳〵來世にてはこれをしるしにてめぐりあひ可申候又ぞやわが身花だんのはなとおほせられて御みせなされ候ころしづ心なくきへかへりまゐらせ候此花のさかりにはそもじ樣とこそながめて幾世ゝにかれ〳〵になりはてゝひとりながむる山吹のとへどこたへぬ色なればそさまの花の袖の香におくれし夢の面影を見るとだにもまぼろしにあふはあふかはもろともにつゐに消なん露の身のわれや先だつ人やおくるゝうらめしやありし世にだに戀しきをめかれなく契まゐらせ候はで今は何事もみなあだとなりつむかし語りと成まゐらせ候事こそふかきおもひのたねとあこがれまゐらせ候あゝこひしのそさまやしのばしの友人やひとへ二重の色のみかやへ山吹をおくり給ふ情けのいろくちはてずおもへとの御こゝのうちとこそおしはかられまゐらせ候

　　山吹の花の千しほはかはるとも
　　　いはぬ色をはわれわすれめや

われらこゝろの中いさゝかかはりなふくれ〳〵おもひまゐらせ候

もろともにうへてながめし山吹の
ちりてもはるのおもかけと見る

なつかしや戀しや古里をいてしはいつの時日よやとおもへは袖のかはく間もはざなく候いやしき夷の嶋にすみまゐらせ候とてもはおもひすてくだされまじく候わかみの露は秋の田の穂のうへてらすいなづまのひかりの間もわすれずさす候折から雨風のそよぐにつけてもはなつかしさおぼしめしやられくださるべく候あまり日本のこひしくてやるかたなき折ふしはわたりの海原をながめ候は外ははざなく候げにや古き歌に大そらはこひしき人のかたみかはものおもふとになかめこそすれと讀し人までも身の上におもひあはせまゐらせ候（未完）

前號じやがたら文中に誤字甚た多し是に正誤す伊藤米次郎は半次郎の誤り土人の内は十一人手習草文は學文一篇をつけてはかゝげて世に女學雜誌は幸にの誤り我等と共に追福は追弔おくれぬはれたゝれねば水月朔日は卯月ついたちまた東空はまた東雲なかれつよしはなされ候よししほ〳〵はひとしほの誤りまゐらせ候とやはまゐらせ候也これこのとし月はこなたの誤

○乳母を雇入るゝに付ての注意　　在湯島　藤井けい

世人一般乳母を雇入るゝに於て餘り意を加えざる様に聞及べり偶々意を用ゆる人あるも其撰方甚々簡にして只田舎人にて皮膚黒色にして肉肥りたる者なれば足れりとせり然れども乳母を雇入るゝは誠に大切なる事にして輕々に付す可らざると思考せり故に今其雇入方に於て注意すべき大意を左に擧ぐ

(1) 生母四十才前後なれは乳母は二十才前後をよしとす

(2) 生母二十才前後なれば乳母も又二十才より三十才の人を宜しとす然れども乳母の小兒と生母の小兒と年齢に大差ある可からず大抵二ヶ月位置を宜しとす

(3) 乳母の身躰強康は元より乳母の兄妹に遺傳病「即ち親よりゆづり受けの病」の有無を索し乳母の身躰に付ては腟加答兒又は子宮病其他局部の炎症等あるを知らずして哺乳せしむるときは腦膜炎或は其他に不側の病を釀すものなり

(4) 乳母の性質を問ふべし（即ち飲酒家粗暴等は不宜）

(5) 乳母の月經無きを撰ぶべし若し月經あれは乳汁の性分を變する故に又隨て小兒の榮養を變すればなり

(6) 乳房の皮膚に發疹又は班痕或は硬結無き者を撰ぶべし

(7) 乳汁は多量に分泌する者を撰ぶべし

(8) 乳母の小兒の健否を問ふべし若し死するときは何病にて死せしを問ふべし乳汁の質は適當の醫師に驗査を乞ふべし

(9) 遺傳病に梅毒肺病すじ等のをそるべくして一寸見がたき者あれば能々注意すべし

●新報

○婚姻に係る伺　昨年十二月二十八日東府京より離縁養女を妻に娶るとに付き明治十一年七月五日大坂府の伺に對し内務卿指令の趣も之ありたる處右伺而は母子を前後に娶る儀なるを以て聞届け難き旨指令相成たり然るに今單に養女を貰ひ置き之を離縁復籍せしめ更に妻に貰受けんとするものあり是は大坂府伺面の事實とも相異り乃ち婿養子其婦(家女)を離縁し同居の儘更に其妹を他の養女となして妻にすると較々相均しきものにて先に養父と呼ひ養兄と呼ふの差いあるなれと同しく血縁の無きものにて右等の分れ妻に貰受けても差支なきか如し然れとも一旦養父子と呼ひしものあるに依り倫理上不都合に付き縁組差留め申すへきやと届出てたるに司法省よりは後段伺の通と指令せりと去月十八日官報に見ゆ

○私立三重女學校　は同縣知事を始め書記官伊藤氏等の盡力にて丸の内一番地に設立せられ去る十五日開校の式を擧げられ伊藤書記官門岡警部長をはじめ縣屬縣會常置委員其他豪商紳士新聞記者等數十名來會あり頗る盛んなりしと云ふ教師は中學校教員ストラー氏の叔母を聘せられしよし

○高等女學校　高等女學校は本省所轄のものと一府七縣の所轄のものとを合せて其數九箇に過ぎず其教員七十二名、生徒六百十六名卒業生は十六名を増加したるのみ今試みに全國女子の教育を以て男子の教育に比すれば小學校の女生徒は男生徒百分四十四弱に當り師範學校の女生徒は男生徒百分の十五弱に當る更に高等女學校の生徒を以て之を中學校の生徒に比較すれば僅に百分の四强に當るに過ぎずして女子教育の事未だ著く進むを見ず此他各種學校中專ら女學に關する學科を授くるもの少なからずと雖も其組織未だ完全ならず唯此等の學校にして漸次改良發達せば亦以て女子教育の缺を補ふに足らん十八年高等女學校一覽表は左の如し(表略)

右は全國教育報告(文部省)より拔萃せしものにて少しく後まきながら女學上に關係あれば古きを顧みず轉載せり

○裁縫專門術試驗　去月二十三四の兩日仙臺元荒町松操學校に於て同試驗を執行せり抑此の試驗たるや月々擧行し來たる者とは大いに異なり校長朴澤氏が心得居らるゝ丈の事を悉皆傳授せらるゝ者にて區内裁縫教師の立合を以て執行する者なりとぞ又是迄は試驗課目を掲げて執行し來りしも今度は別に課目を揭けず鬮取を以て試驗されたれば實に尋常の試驗とは違ひ試驗生の苦心思ひ遣られしど然れは其試驗生は同校屆竟

の高弟朴澤ひろ及び茨城縣士族尾花ひでの兩子なるを以て差かゝなく及第せしに付き同廿四日午後二時卒業證書授與式を執行せり同日は仙臺區長十文字信介氏及び學務課長秋山恒太郎仙臺區書記東儀平等の諸氏にも臨場せられ證書授與終りて校長朴澤氏の婦人の心得と云ふ題にて教育上の事より裁縫の婦人に欠べからざる事又衞生上の心得或は慢心を愼しむべき等の主意にて懇篤なる演説あり次で十文字區長にも今日當地方に裁縫業の行るゝは專ら朴澤氏の力なして終に奥羽各縣よりも入塾を申し込むに至りしは一人朴澤氏の榮譽のみならず本縣の榮譽なれば益々此校の隆盛を望むとの演説あり夫より風琴或ひは唱歌等にて全く式を終へ直ちに第二回實地洋食授業の事あり來賓へは洋食の饗應ありて各退場されしは午後五時頃なりしと尙ほ聞く處に據れば尾花ひでは近日其地を出發し長崎縣へ赴き裁縫專門校を開設する筈なりと

○福岡婦人同伴會　世の開明に連れ交際の益する又た少小ならざるより男女とも追々交際頻繁なるは人智開發の一徴なるか福岡の江藤正澄古賀勇夫の二氏率先發企して福岡書林同業者の婦人同伴會を去月廿六日東公園皆松館に開會し是れまで面識なき婦人をして充分懇親を結ばしめ且つ漸を以て從來の女流習慣を脫却改良せんとの目的なりと

○秋田師範學校長の示諭　秋田阪根師範學校長は此度本入學を許されたる女生徒の父兄保証人を去二十七日學校に召集して師範學校の女子教育方の要旨を說き隨つて其生徒か家に居るの際ハ父母兄姉たる者りよく一致して之を導き秩序、淸潔、勉勵、謹愼等の諸德に注意して其習慣を優美にし以て學校長か施さんとする敎育の目的を賛助すべき旨幷に食物の品種の注意より沐浴の必要、運動の適度等を示諭せられたり右は早晩女生徒に恰當の寄宿舍を設けて入舍せしめらるゝ筈なれども女子の敎育に適する寄宿舍は別段の構造を要するとて目下詮議中なりと云ふ

○築地新榮女學校文學會　は去月廿八日午后三時より同校講堂にて開會せられ諸子の英文朗讀、祝文、唱歌、英詩暗誦、室內躰操等あり會衆六十餘名にして茶菓の饗應あり五時過散會す

○兵庫福原町女工場　同女工場は去る二日より開場せられたりと云ふ

○女子職業學校　神田錦町の同校は追々官立にさるゝよしにて今度一ッ橋通町の文部省用地に其校舍を新築するに付き去三十一日手島文部會計局次長服部同參事官が右地所見分の爲

め出張せられたり

○大坂新町女學校　は近頃掛員の奬勵に依り藝娼妓の通學生續々增加して目下生徒の數は凡そ百二十餘名に及びたる由に

○沖繩女學校景况　同地東村小學校にありし女教場は此度師範學校に附屬せしめられ生徒は三十名許りにして内土人は三名に過ぎず首里小學校は生徒最も多く女生徒中に縣民凡そ三十名も入學し居れりと云ふ

○私立大坂一致女學校　は大坂西區土佐堀三丁目に開校せられしがミス、ガーウヰン櫻井ちかの兩氏が非常に盡力せられしにより目下既に滿員にて入校を申し込むものを謝絶せられしが今度他へ轉じ來る四月一日より新入志願者の望みに應ぜらるゝと云ふ

○男禁制の外塾　大坂西區土佐堀裏町の善積順造氏外七氏の發起にて川口在留の米國宣教師ギユリキ夫人オールチン夫人コルベー婦人を教員に聘して東區南久太郎町心齋橋筋西へ入處へ設立したる婦人奬業會は府下の婦人は勿論遠方よりも會員たらん事を申込む者續々ありて既に三十餘名にも及びたるを以て此分にては塾生も追々增加すべければ近所へ相當なる外塾を設けざるを得ざるべしとて目下委員が相談中なりと云ふ尤も婦人を入るゝの塾なれば男の出入を一切禁じ門戸に男禁制の大札を掲ぐる積りなりとぞ

○岡山通信　岡山縣下藝娼妓の數(昨年十二月三十一日)調は藝妓をなすもの備前五十五人、備中八人、美作十七人にて合計八十人なり又娼妓を爲すもの備前三百五人、備中五十七人、美作二十八人にして合計三百八十二人なり。女子の職業は當縣下に於て先づ美作國は養蠶を主とし備中高梁邊は麥藁細工煙草手傳を主とし兒玉島邊は綿糸紡績を主とし備前は同く紡績織物等を主とす尤も備中笠岡邊は養蠶を以て女子の職とぞ女子の職業に付當地に好望あるものは紡績、織物、印刷の三者にして岡山區榮町西尾活版所にて六年以來女工を用ゆ(男工も勿論あり)目下其數四十名程なり十七歳以下十一歳迄日給八錢より三錢迄、五年若しくは六年目のもの組方に從事す。私立女學校三あり英和女學校、私立岡山女學校、婦人英學會とす英和女學校は全く岡山基督教會信徒の設立に係る岡山婦人禁酒會は漸次振起すべし當地に「レース」流行の配向ありて洋糸綿糸は諸所に鬻けり　(岡山木村長門氏報)

●本號には女學雜誌第四十一號より五十號までの總目錄を附す

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○帝國大學英語會は會長チクソン氏名譽書記日置益氏等の發起により此度新に起れる會なるが去廿八日午後七時より第一會を寄宿舍内の演說場に開かる學生諸君場に充ち教授方も多く臨席あり又西洋貴婦人數名を見受けぬ初に奏樂あり次に武井才二郎氏の講演（愛國心の說）あり次にチクソン氏の本讀（トーマス、アーノルド氏の詩）ありて後ち英語の討論に移れり題は英米婦人が社會上に有する特權を移して全く之を日本婦人に與ふるの利害といへる問にて積極の主論者は植村俊平氏（大學院學生法學士）消極の主論者は木内重四郎氏（政治學科二年生）あり各助手一名づゝありて積極には林權助氏（外交學三年生）消極には戶澤鼎氏（政治學二年生）と定りぬ植村氏等の議には英米婦人の有する程の特權を悉く我國の婦人に與へずんば本邦將來の文化は期すべからずとあり木内氏等の論は我國婦人の現狀固より改良すべき所多しと雖も外國の慣習を悉く模倣するは國家の大禍なりと云ふにありて双方共に面白き理由多く二時間に渉るも猶ほ議論の盡ざれば終に次會（本月第四金曜日）に引續き討論すべき由にて散會ありたり
因に云ふ右に付植村君より編者への來狀あり又他の諸氏の論旨筆記をも請ひ置たれば次號に細かに記すことあるべし

● 論說（追加）

○男女相擇ぶの說　　西村茂樹稿

前號の新報欄内に記し置たる右西村君の論說は近日出版の學士會院雜誌に入て漸く公になりたれば兼ても申置たる如く則ち請ひ受て本號以下に揭載することゝなしぬ

方今の開化者流の說に曰く支那の敎ハ夫婦となる者ハ男女自ら相擇ぶこと能ハず其父母たる者子女の爲めに婿婦を擇ぶ者にして父母既に之を擇び定めたる時ハ其子女ハ如何に不承知なりとも之に異議を容るゝこと能ハず好まぬながら夫婦となり以て其生を送る是を以て輙もすれバ其間に風波起り中途にして離緣する者多し實に男女の爲めに甚不幸なることなり幼年の時に許嫁するが如きハ其弊殊に甚し西洋の敎ハ之に異にして男女自ら其愛する所の人を擇ぶを以て夫婦の情甚た親厚にして生涯の幸福を得ること多しと近年少しく西洋書の片端を讀みたる者其言の大に自身に都合よきを喜び一人之を唱ふれバ萬口之に雷同し新聞紙に雜誌に此事を論ずる者多く從來夫婦婚嫁の法を以て大に道理に戾れる事とし或ハ忌ハしき等の語を以て之を誹るに至る是に由り世の少年處女爭ふて之に倣ハんと欲する者多きが如し是等の語ハ倉卒に之を聞けバ至極適當の

如く見ゆれども其實は大に然らざる者あり余世の少年處女が是等の言を妄信して其生涯を誤らんことを恐れ老婆心を以て爲めに一場の演説を爲すこと左の如し

先つ支那の敎に父母たる者は必ず其子女の爲めに婿婦を擇ぶと云ふことは甚だ明白ならぬことなり禮記に男女非レ有ニ行媒一不レ相ニ知名一とあり禮經の明文は惟是のみなり其行媒と云ふ者は必しも父母の命に限りたる者とも見えず故に此文のみにては未だ父母其子の爲めに婿婦を擇ぶの證とするに足らず然れとも孟子に丈夫生而願ニ爲レ之有一レ室、女子生而願ニ爲レ之有一レ家、父母之心人皆有レ之、不レ待ニ父母之命媒妁之言一云云、又丈夫之冠也父命レ之、女子之嫁也母命レ之、云々とあるを見れば禮經の文は兎も角も支那の風俗にては婚姻の事は父母媒妁の管する所ありしと見えたり後世に至りては父たる者其女の爲に婿を擇ぶ者多しと雖も是等は歴史に記する所を見るに何れも好例にして其擇びたる婿は常に賢才ある者か又は福德ある者に限れる樣に見ゆるあり元來支那の敎にては人の子女たる者は專ら從順恭敬を務むべきことあれば若し父母其子の爲めに婿婦を擇ぶときは其子たる者は不同意を言ふこと能はざるの風習とあり居れども經典の明文には必しも此の如き確然たる定則はなきことあり又後世に至りて男女幼年の時に父母其婚嫁を約し又は未生の前に之を約する者あり是等の弊害あるとは支那人も亦自ら之を言へり司馬温公の家訓に曰、世俗好於ニ襁褓童稚之時一輕許レ爲レ婚、亦有ニ指レ腹爲レ婚者一、及ニ既長一或不肖無賴、或有ニ惡疾一、或家貧凍餒、或喪服相仍、或從ニ官遠方一、遂至ニ棄レ信負レ約、速レ獄致レ訟者多矣、先祖太尉嘗曰、吾家男女必俟ニ既長一議レ婚、既通レ書不ニ數月一必成レ婚、故終身無ニ此悔一乃子孫所レ當レ法也、然らば此事は支那の敎と言ふべからずして寧ろ支那の弊風と稱して可なる者あるべし

男女自ら其配偶を擇ぶと云ふとは西國古來よりの風習にして實に論者の言ふ所の如し西國の修身書にも婚姻は男女互に相擇び之を父母に告げ其許可を得たる上にて婚姻を行ふべしとあり現今歐米の諸國大抵此風習に從へりと聞けり

日本の婚姻法を按ずるに上古の事は詳ならず中古の比は男女自ら其配偶を擇びたるが如し萬葉古今等の歌集を見るに當時の民間にては男女互に和歌を以て其情を通じ已に夫婦となりたる後も婦を己が家に娶らずして之を父母の家に置き男子の方より其家に通ひたる者の如し然れども是獨り民間の事に止り朝廷の搢紳官吏は皆な婦を其家に娶り婚姻の禮式も相應に整備せるものと見へたり(未完)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學書類取次

婦人地球週遊記(一册)英國ブラッセー女著、內田彌八氏譯。定價七十錢。本誌第廿六號に批評あり。

日本之意匠及情交(一册)田口卯吉君著。本誌第廿七號に批評あり。定價十五錢。郵稅六錢。

賢女脩身事蹟(三册)今川肅君著。本誌第廿八號に批評あり。定價三十六錢。郵稅十二錢。

ひざもとの教(一册)近藤眞樹女著。本誌第卅二號に批評す。定價十錢。郵稅〃錢。

いへのをしへ(一册)松山高吉君著。本誌第卅四號に批評す。定價三錢。郵稅二錢。

日本婚姻の弊害(一册)大島盛三君著。本誌第卅五號に批評す。定價十二錢五厘。郵稅四錢。

看病の心得(一册)笹川純一君著。第卅九號に批評す。定價三十錢。郵稅六錢。

演劇改良論私考(一册)外山正一君著。本誌第卅六號に批評す。定價二十錢。郵稅四錢。

社會改良と耶蘇教との關係同前著。本誌第卅九號に批評そ。定價廿五錢。郵稅六錢。

小兒健全示要(一册)岩田文吉君著、本誌第卅六號に批評す。定價四十錢。郵稅十錢。

女子必讀(一册)進藤直温君著。本誌第卅七號に批評す。定價五十七錢。郵稅十錢。

朝鬮夫人傳(一册)坪內雄藏君譯。本誌第卅九號に批評す。定價六十錢。郵稅十錢。

日本婚姻法論畧(一册)鈴木券太郎君著。本誌第卅八號に批評す。定價五十五錢。郵稅十錢

日本婦人纂論(一册)井上直女編 本誌第卅八號に批評あり。定價二十六錢。郵稅六錢

(右取次賣捌)

東京京橋區日吉町八番地

女學雜誌社

東京產婆學校廣告

夫レ產婆ノ業タル古來婦人ノ專有職ニシテ而モ輓今婦人ノ職業中最モ高尚ノ地ニ位スルニ至レリ是レ產婆ノ巧拙ハ世間婦嬰ノ安危ニ關スルコ尠カラザルヲ以テ學術兼備ノ者ニ非ラザレハ產婆タルヲ得ザレハナリ當校モ櫻井郁次郎氏夙ニ當產婆專門學校ヲ設立シテ以來既ニ七年業卒ヘ內務大臣ノ免狀ヲ得ル者已ニ數十名且ツ近來生徒ノ數益々增加スルヲ以テ茲ニ校規ヲ擴張シ廣ク生徒ヲ募集シ愈々本學ノ振興ヲ圖ラントス本校ハ固ヨリ入學定期ヲ設ケズ何時ニテモ入學セシムト雖本月ヨリ產婆各論ヲ講始スルニヨリ望ノ者ハ至急入學アルベシ本校舊幹事尾洲米子舊臘米國ヘ留學致候ニ付今般岩田文吉氏ヲ幹事兼教員ニ囑任セリ此段併テ廣告致候也

二月

淺草區福富町三番地

東京產婆學校

文部省御檢定濟小學教科書

○日本史要

古谷傳編纂　全三册

校正再板

本書ハ編輯ノ體裁及順序記事ノ撰擇行文文字等最モ其撰ヲ愼ミ卷中挿入スル古今名哲ノ肖像及緊要ナル沿革地圖ノ如キハ全ク歐米ノ風ニ倣ヒ頗ル精確巧妙ヲ極ム其他改良補修セルモノ二三ニ止ラズ其用意周到ニシテ適切完備ナル世間尋常歷史ノ比ニアラズ今般**文部省ニ於テ御檢定ノ上小學校教科書ニ適當ナルコトヲ認定セラレタリ**

請フ職ニ教育ニ從事セル諸彥奮テ本書ヲ用ヒ大ニ前途ノ進歩ヲ期セラレンコトヲ

出版人　東京日本橋區西川岸町十四番地　**高見年之助**

製本發賣所　同區同町　**博愛堂書屋**

郵便局認可

基督教新聞

第百八十四號 二月二日發兌

六合雜誌

第七十三號 廿年一月出○一册十錢無郵税

●有神論と道德(島田三郎)○自由貿易と基督教(德富猪一郎)○學術と宗教(スピンチル)○心理學講義(浮田和民)●泰西の思想(獨乙國哲學の近狀)●雜報(道德と文學)(フランスの宗教)等 古今將來日本の言語及文字(高橋吾良)

發行所 東京々橋區瀧山町六番地 警醒社

各種新版書籍新年祝 御年玉貳割發賣廣告

新らしく開け行く御代の光りぞふみ明り書房の店の初賣にハイ新年芽出度ありまする御變りなく賑々敷御愛顧なし下さいまして誠に難有存じ升其禮に何がな御年玉を呈上なさばやと千思万考せし折柄添物の替りに安賣直な一層割引して書籍を賣渡して呉ろとの花主の仰せにより成程是は妙案ならん御不用の品を添物するよりは夫丈けの割引にて差上たらんには諸君の御便利も多かるべしと思ひ立ち郎ち**本日より滿二十日の間**御年玉割引の大安賣を致し申候固より今度はステキメッポウの大安賣にて算盤はづれ損益見ずソコハ元祖の鼻高の奮發にして他店の出來ぬ安賣に候間(期限後は年玉割引は一切不仕)四方八方の花主様方永當々々澤山の御注文くださりて店の賑ひ彌ましに賣りし利益へ(ドウダカ)をしめかざり松梅いよいよ繁昌仕候依て初賣の口上茅出度かくの如し千祈万禱●但し書籍目錄ハ郵券二錢御送附の節直に送呈致します

和漢洋書 出版 稗史 小説文房具無双大安賣

大坂中之島五丁目阿波横町北角

元祖書肆 **共益商舍**

發兌				
二月。	五日	十二日	十九日	廿六日
三月。	五日	十二日	十九日	廿六日
四月。	二日	九日	十六日	廿三日
				三十日
五月。	七日	十四日	廿一日	廿八日

定價			
一册。五錢	郵税。一錢	(但府内無郵税)	
十册。四十八錢	郵税。十錢	(同前)	
半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

一行	一回 (廿七字詰)	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMEN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHÔ, SHINBASHI, Tôkyô.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條涌東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○横濱住吉町四丁目角田屋貞○東京本郷四丁目文壽堂

●賣捌新加 出雲國松江新町 盛進堂

發行所 東京京橋區日吉町八番地 本局 **女學雜誌社**

持主兼編輯 巖本善治

印刷 森田豐

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

ボゥの大安賣にて算盤はづれ損益見すゝ
の奮發にして他店の出來ぬ安賣に候間（期限後は年玉割
引は一切不仕）四方八方の花主様方永當々々澤山の御注
文くださりて店の賑ひ彌ましに賣りし利益へ（ドウダカ）
をしめかざり松梅いよ〳〵繁昌仕候依て初賣の口上芽出
度かくの如し千祈万禱●但し書籍目錄れ郵券二錢御送附
り第直に送呈致します

大坂中之島五丁目阿波横町北角

和漢洋書出版 稗史

小説文房具無双大安賣 元祖書肆 共益商舍

ド○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町一五番地

雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍

○横濱住吉町四丁目角田屋貞（）東京本郷四丁目文壽堂

●賣捌新加 出雲國松江新町 盛進堂

發行所 本局 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

持主兼編輯 巖本善治

印刷 森田豐

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

● 基督教新聞 第百八十四號 二月二日發兌

● 六合雜誌 第七十三號 廿年一月出 ○一册十錢無郵稅

●有神論と道德(島田三郎)古今將來日本の言語及文字(高橋吾良)○自由貿易と基督教(德富猪一郎)○學術と宗教(スピンチル)○心理學講義(浮田和民)●泰西の思想(獨乙國哲學の近狀●雜報(道德と文學)(フランスの宗教)等

發行所 東京々橋區瀧山町六番地 警醒社

● 各種新版書籍新年祝
御年玉貳割發賣廣告

新らしく開け行く御代の光りぞふみ明り書房の店の初賣にハィ新年芽出度わりまず御變りなく賑々敷御愛顧なし下さいまして誠に難有存じ升其禮に何がな御年玉を呈上なさばやと千思万考せし折柄添物の替りに安賣直ち一層割引して書籍を賣渡して呉ろとの花主の仰せにより成程是は妙案ならん御不用の品を添物するよりは夫丈けの割引にて差上たらんには諸君の御便利も多かるべしと思ひ立ち即ち本日より滿二十日の間御年玉割引の大安賣を致し申候固より今度はスヲキメッポゥの大安賣にて算盤はづれ損益見ずッコハ元祖の鼻高の奮發にして他店の出來ぬ安賣に候間(期限後は年玉割引は一切不仕)四方八方の花主樣方永當々々澤山の御注文くださりて店の賑ひ彌ましに賣りし利益へ(ドウダカ)をしめかざり松梅いよ〳〵繁昌仕候依て初賣の口上茅出度かくの如し千祈万禱●但し書籍目錄ハ郵券二錢御送附り第直に送呈致します

和漢洋書 出版 稗史
小說文房具無双大安賣

大坂中之島五丁目阿波橫町北角
元祖書肆 共益商舍

發兌

二月。	五日	十二日	十九日	廿六日	
三月。	五日	十二日	十九日	廿六日	
四月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
五月。	七日	十四日	廿一日	廿八日	

定價

一册。五錢	郵稅。一錢	(但府內無郵稅)	
十册。四十八錢	郵稅。十錢	(同前)	
半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲載する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行 一回 前金拾錢 (廿七字詰)
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引
但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受くべし
女學に關係ある書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町頁明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本鄉區元富士町盛春堂○同本鄉區春木町二丁目解明堂○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條涌東洞院西へ入クリスチアンポード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○橫濱住吉町四丁目角田屋貞()東京本鄉四丁目文壽堂
●賣捌新加 出雲國松江新町 盛進堂

發行所 東京京橋區日吉町八番地
本局 女學雜誌社
持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐

WOMEN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."
Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHIN-BASHI, Tôkyô.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY